

たけのこ

2020.5.18

第7号

前に進む

園長 平岩ふみよ

白血病からの復帰を目指している競泳女子の池江璃花子選手の闘病生活を追った「NHKスペシャル」を視聴しました。この3ヶ月程は、連日新型コロナウイルス関係の番組ばかりに注目してきましたので大変新鮮な気持ちになれる番組でした。4月11日から幼稚園の日常が不意にかわってしまい、戸惑いやもどかしこのなか当り前だったことができず、下を向ってしまいかちな私たちを励ますメッセージを感じました。東京オリンピックでの活躍が期待されていた池江さんは、血液のがんといわれる白血病で闘病中ですが、昨年末に退院。三月には406日ぶりにプールに入り、あふ

れる喜びを語っていました。水中出産で生まれた彼女は、三歳からプールに喜んで通ったそうです。前回リオ五輪の時には、日本競泳史上最多となる七種目に出場し、現在も数多くの日本記録をもつトップスイマーです。しかし、昨年の二月に突然の白血病宣告を受け、積み上げてきたものを失いました。「生まれていることさえしんどいと落ち込んだ過酷な闘病生活、そして泳ぐことの意味を考える姿」を彼女に密着し、その心境の変化を映しました。以前は速く泳ぐことだけを考えてきたのですが、いまは苦しんでいる人たちに勇気を与えたいとの使命感を感じたいものかわっている。過去を振り返らうか自分の成長を楽しめるようになってきていること、限界までチャレンジしたいという力強さが伝わってきました。困難をのりこえ当り前のことに幸せを感じながら前を向く池江さんの表情は希望にあふれ、まぶしいほど輝いていました。十九歳の池江さんから、どんな困難なことも前を向いていくことの素晴らしさを学んだ

貴重な時間でした。

さて、幼稚園では、再開に向けて様々な準備をしています。「せんせい」と泣いては抱きつかず、喜んでほ抱きつく。私たちは、子どもたちと信頼関係を築いているほど、その距離は密になります。本来愛着形成に必要なスキンシップが新型コロナウイルス拡大の中ではできるだけ避けなければならぬものとされています。子どもたちが群れあふことを制限していかなくてはなりません。「人と交わらないように」と幼児教育の根源と真逆を要求される今をどう受けとめ、工夫をしていくのか、知恵出し合いの検討を重ねる毎日です。一日も早く笑顔でおはようとおいさつし、子どもたちみんなをギッツと抱きしめることのできるそんな日常がくるのを信じて前に進みたいのです。保護者のみなさんのご理解とご協力をよろしくお願いします。そしてご意見もおきかせください。

絵本紹介

おたんじょうびのひ

中川 ひろたか(文)

長谷川 義史(絵)

出版社 朝北社

誕生会の日、子ども達は、生まれた日や赤ちゃんのときの話を喜びます。ユーモラスな内容から命のつながりや成長の喜びが温かく感じられる絵本です。長谷川義史さんの絵がうれしい。雪囲気と醸し出しています。

今年も、保護者のみなさんをお招きしての誕生会ができません。子どもたちが毎月楽しみに行事でした。今できることを全カサポートし、を合言葉に教職員一丸となつて子どもたちの「おおきくなりた」に寄り添います。